

# 掛唄で歌われることはなにか

## ——計量テキスト分析による掛唄の話題抽出の試み——

梶丸 岳

秋田県で歌われている「掛唄」は、今も行われており記録が取られ続けている即興の掛け合い歌として貴重な民謡である。本研究は金澤八幡宮伝統掛唄大会で歌われてきた21年分の歌詞の記録を対象に、計量テキスト分析の手法を用いて掛唄でなにが歌われてきたのかを明らかにすることを目的とする。

まず掛唄の歌詞を首単位で分類するクラスター分析からは、飲酒や世相、秋田と新潟、掛唄などの話題が抽出できたが、時事問題など明瞭に抽出できなかった話題もあった。また同一のカテゴリーに複数の話題が含まれていると思われる区分もあった。次に抽出語の上位150語相当に対する分析からは、娯楽や気候、飲酒、秋田と新潟、掛唄などの話題を見出すことができた。本研究の分析過程で明らかになった、抽出が難しい話題をどう扱うかといった問題を克服しつつ、さらに異なるアプローチを用いて掛唄の話題の現れるパターンを明らかにしていくことが今後の課題である。

キーワード：掛唄、話題、クラスター分析、計量テキスト分析

### 1 即興の掛け合い歌「掛唄」へのアプローチ

#### はじめに

秋田県の横手市と美郷町ではそれぞれ年に一度、「掛唄」と呼ばれる民謡の大会が開かれている〔図1〕。この民謡は仙北荷方節という、もともと祝い事などの場で歌われる歌の節回しに、即興で歌詞を付けて歌を会話のように交わす掛け合い歌である<sup>①</sup>。掛け合い歌は世界各地にみられるが〔梶丸 2013:229-231〕、日本で有名なのは『常陸風土記』や『万葉集』などに記述が残る「歌垣」である〔土橋 1965; 渡邊 1981〕。これは一定の期日に男女が山に登り、歌の掛け合いを通して愛を交わしたとされる習俗である。男女の恋愛に限らなければ、そこまで遡らずとも会津の玄如節に歌詞を即興的につけて面白く掛け合った「ウタゲイ」〔山口 1955:359-366〕など、明治や大正の時代までは日本各地に民謡による掛け合いの習俗があったとみられている〔藤田 1940:107-115; 辻 1980:118-119〕。だがそうした習俗の大半が歌詞の体系的な記録もされずに絶えてしまった今、即興の掛け合いの記録が多く残っており、今も定期的に大会が開かれて歌が掛け合われ、記録が取られ続けている掛唄は、民謡による即興の掛け合い歌の実態を明らかにするうえで非常に貴重な存在になっている。

また、掛唄を日本以外における掛け合い歌を含めて比較したときにとりわけ際立つ特徴が、歌詞の即興性の高さである。ブータンの「ツォンマ」〔糸永 1986〕や中国貴州省の「山歌」〔梶丸 2013〕のように、掛け合い歌は歌い手が大量の定型表現を記憶しており、それをその場に合わせて編集しつつ歌うというスタイルが多い。ところが掛唄においては（即興で歌詞を考える能力に乏しい初心者が歌う場合を除いて）基本的に既存の定型表現が歌われることがほとんどなく、歌い手たちはその場で思いついたことを完全に即興で歌う。歌詞の多くは日常会話にかなり近い表現であり、掛唄で歌われた歌詞は発話と、掛唄の掛け合いはふしのつけられた会話と見なすことができる。また、歌詞が即興で作られていくということは、歌詞が決まっている民謡はおろか、定型表現を



〔図1〕秋田県地図

駆使するタイプの掛け合い歌よりはるかに多様な歌詞が歌われるということである。そのため、歌詞の記録をある程度大量に収集して整理し、コーパスを作って統計的手法で分析することが、掛唄の言語表現にみられる特徴を明らかにするうえで大きな力を発揮すると思われる。とりわけ掛唄で歌われる歌詞の全体的傾向を把握する上で統計的分析は強力なツールとなる。

掛唄が歌われている大会は、美郷町の熊野神社で例年8月25日に開催される「全県かけ唄大会」と、横手市の金澤八幡宮で例年9月14日夜から15日未明にかけて開催される「金澤八幡宮伝統掛唄大会」の2つである。本研究で中心となるのは後者である（以下本稿で単に「大会」と言うときは「金澤八幡宮伝統掛唄大会」を指すこととする）。金澤八幡宮における掛唄の歴史は江戸時代にまで遡るといい、大正時代から徐々に大会としての体裁が整えられてきた。1990年代には後継者不足に悩まされるようになり、平成15年（2003）からは地元の中学校において掛唄を教えるようになった（この中学校は平成24年（2012）に統廃合で閉校している）。これに伴い、大会では練習してきた掛唄を披露する「ジュニアの部」が設けられるようになった。さらに平成21年（2009）からは新潟大学より音楽教育学の伊野義博ゼミが参加するようになっており、ゼミ生が練習してきた掛唄を歌う「大学生の部」が設けられ、さらに一部の学生および教員が「一般の部」と呼ばれるようになった大会の本番にも参加するようになった〔加藤編 2007; 梶丸 2014〕。大会で歌手たちは2人ずつ呼ばれて合計4～8首掛け合いで歌ったところで交代していく。大会において1回戦と2回戦はほぼ全員が歌い、そこから人数が絞られて最終的に4回戦もしくは5回戦まで掛け合いが行われる。

これまで筆者は2009年から2015年まで、2013年を除いた毎年金澤八幡宮伝統掛唄大会の現地調査を続け、2013年と2014年には全県かけ唄大会についても調査を行った。調査を踏まえて拙稿〔梶丸 2014〕では両大会の概要と現状について述べたが、これはあくまで概括的な調査報告であり、個別の問題についてはあまり深い分析を行わなかった。

## 掛唄の話題分類

本研究で焦点を当てるのは、掛唄に表われる話題（＝トピック）である。常識的な見方をすれば話題は「それについて話されているところのもの」と定義できるだろう。会話分析研究者の申田が言うように、会話の話題は単に一連の発話の意味理解という働きの一環として現われるだけでなく、ある発話の後に一定範囲の発話を連鎖させることを促進すると同時に制約もするという点において規範性を帯びたものであり、話の流れに乗って自らの発話を生みだし話の流れを作るという「循環的営みを通じて会話者たちが相互行為的に作り出す」「規範性を備えた流れの様式」である〔申田 1997:176-177〕。とはいえそこには何らかのタイトル的に示すことのできるものが（常に複数ありうるにしろ）存在することも確かである。本研究における「話題」は、それが流れのなかで現われる相互行為的なものである点を念頭に置きつつも、基本的にはタイトル的に示される、発話（本研究の場合は歌詞）がそこに向けられているものを指す。この「タイトル」は、発話に現われた語彙を手がかりとしてある程度探ることができるはずである。

掛唄は基本的になにを歌ってもよいとされており、大会では非常に幅広い話題の掛け合いが行われる。そうした掛け合いを話題に従って分類する試みもそれなりに行われてきた。たとえば民謡研究家で長年掛唄について調査を行ってきた宮崎隆は、平成元年（1989）に全県かけ唄大会と金澤八幡宮伝統掛唄大会で歌われた歌詞を「挨拶（伝承歌詞による）」「気候」「政治批判」「農業問題」「高校野球」「事件」「優勝旗」「その他」に分類している〔宮崎 1990:109〕。だが六郷町かけ唄保存会が発行した全県かけ唄大会五十回記念誌<sup>(2)</sup>に掲載されている平成12年（2000）の分類では「挨拶類型句」「年齢・相手」「恋・色気・性」「唄・掛唄」「掛唄仲間」「天気・稲作」「土地褒め等」「時事問題（世相一般）」「時事問題（トピック）」「唄・掛唄」となっていて、平成元年の分類とはかなり異なっている〔安倍ほか編 2003:54〕<sup>(3)</sup>。一方、金澤八幡宮伝統掛唄大会を実施している金澤八幡宮伝統掛唄保存会が刊行した『金澤八幡宮伝統掛唄秋田県無形民俗文化財指定15周年記念誌』に掲載されている、平成18年（2006）の掛け合い記録には「ジュニアと親子対決に」「少年・親の犯罪」「艶物」「スポーツ」「パチンコ」「稲作」「猛暑とビール」といった話題を示すタイトルが付されている〔加藤編 2007:55-56〕。こうした話題に対するラベリングは年度ごとにアドホックなものであり、年度ごとの話題をつかむ上では有効であるものの、掛唄の多年度にまたがった話題の傾向をつかむ上ではやや妥当性に欠けている。

掛唄の通年にわたる全体的傾向を明らかにするために、歌詞資料コーパスを統計的手法によって分析することが有効であることは先述の通りである。そこで本研究では、掛唄の歌詞を多変量解析による計量テキスト分析の手法を用いて分析し、この21年のあいだ掛唄においてなにが歌われてきたのかを明らかにすることを目的とする。

分析対象としたデータは合計2907首である。これは平成7年（1995）から平成27年（2015）までの21年間にわたって金澤八幡宮伝統掛唄大会本番で歌われた歌詞（準備してきた歌を中高生が披露する「ジュニアの部」が別に設けられた平成15年（2003）以降については、それまでの大会本番に相当する「一般の部」のみ）のうち、これまで入手した歌詞記録から歌詞の内容がまったく不明なものを除いたものである<sup>(4)</sup>。資料のうち、平成7年（1995）から平成20年（2008）については、金澤八幡宮伝統掛唄保存会の元会長であり現顧問である加藤義男氏より提供いただいた記録、および秋田県教育委員会が作成した文化財収録作成調査報告書の記録〔秋田県教育委員会編 1999〕に拠っている。平成21年（2009）から現在までの記録については保存会や、同時期に大会に参加していた新潟大学の伊野ゼミより提供いただいた資料を参照しつつ、適宜映像記録を参照して作成した資料を元にしていく。分析に使用した年度別の歌詞数は表1に示した通りである。平成7年（1995）、平成8年（1996）、平成10年（1998）、平成13年（2001）に関しては抄録であり、とくに平成10年（1998）と平成13年（2001）については掛け合いからの話題別抜粋という形になっているが、かなり幅広い「話題」が取りあげられていること、全体の歌詞数と比較すればそれほど多い数ではないことから、まとめて分析することにした。なお、歌詞については分析で検出されやすいよう、個別に見て多少の不自然さが感じられる用法であってもなるべく表記を統一して

〔表 1〕 分析に使用した年度別の歌詞数

年度	歌詞数(首)
1995抄	79
1996抄	77
1997	191
1998抄	108
1999	185
2000	203
2001抄	126
2002	173
2003	172
2004	139
2005	148
2006	126
2007	154
2008	132
2009	120
2010	122
2011	138
2012	106
2013	138
2014	137
2015	133
合計	2907

ある。たとえば分析に使用したデータセットにおいて「うた」「うたう」は「唄」「唄う」に統一してある。秋田で「妻」を指してよく使われる「カガ」あるいは「カガア」はどちらも「嬢」に統一するなど、分析の都合により多少元の書き起こしデータを加工した部分もあるが、秋田方言を標準語に直すことはしていない。

### 計量テキスト分析

ここで、計量テキスト分析の概略と本研究の分析手順について少し述べておきたい。文字データに対して計量的分析を行う研究は19世紀末から、新聞記事の分析を中心に行われてきた。こうした分析はしばしば「内容分析」と呼ばれており、量的分析と質的分析の両方が行われてきたが、量的分析を行うという側面をその定義から排除しがちであった〔樋口 2006:6-7〕。一方、定義の中に残された質的な分析手法に対しては、厳密性に欠けるなどといった点に対して厳しい批判が行われてきた。だが、本来テキストデータは量に還元して分析したほうがよい側面と、個々の事例を質的側面から分析したほうがよい側面の両方を持っている。

計量テキスト分析は質的な分析と量的な分析を組み合わせ、量的な方法でデータを整理・探索しつつ質的な記述を行う手法である。社会学者の樋口耕一は、計量テキスト分析を次のように定義している。

計量テキスト分析とは、計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理または分析し、内容分析（content analysis）を行う方法である。計量テキスト分析の実践においては、コンピュータの適切な利用が望ましい。〔樋口 2014:15〕

本研究では樋口がこうした計量テキスト分析を実現するために開発したフリーソフトウェアである KH Coder (ver. 3.Alpha.04c) を用いた<sup>5)</sup>。このソフトウェアは従来の内容分析で行われてきた Correlational アプローチ（多変量解析によって自動的にグループを発見・分類する定量的手法）と Dictionary-based アプローチ（分析者が作成した基準（コーディングルール、Dictionary）に従って言葉や文書を分類する、比較的質的側面を重視した手法）

を接合したアプローチを追究できるよう設計されている。

具体的には、Excelあるいはテキストファイルで用意したデータに対して、まず前処理として形態素解析ソフトウェアである「茶筌」〔松本ほか 2003〕を利用して形態素を分析し、「語」を抽出し品詞に分類する。なお、KH Coderでは動詞や形容詞のような活用形のある語についてはすべて基本形の形で抽出される。ただ、この自動抽出では例えば「掛唄」が「掛」と「唄」に分離して認識されるなどといった問題が発生する。そこでこれを修正するために強制抽出する文字列や分析から除外する文字列のリストを作成して問題に対応することができるようになっている。本研究では人名や「掛唄」といった固有名詞など分析上問題が大きい語彙について強制抽出機能を用いて分析結果の調整を行った。この処理を行った次に、抽出語や一定の文書の単位に対して抽出語一覧などを出力したり、対応分析やクラスター分析などを行ったりできるようになっている。こうした分析は Correlational アプローチに属する。さらにコーディングルールを用意して、データに対してコーディングを行って分類することもできる。これは Dictionary-based アプローチに属する。こちらに対しても同様に、さまざまな多変量解析を行うことができる。さらにこうした分析に対して外部変数を参照することで、より細かな分析が行えるようになっている。

本研究では以上のうち Correlational アプローチを重点的に行う。まず第2節において首を単位とするクラスター分析を行って、なるべく予断を含めない形で歌詞を分類する。そのうえで、それぞれの分類がどのように行われたのかを、特徴語や分類された歌詞を確認しながら分析する。そしてどのような話題が掛唄に見られるかを考察する。続く第3節では抽出語一覧上位150語を見てどのような話題があるかを推測し、さらにほぼ同じ語のセットに対して階層的クラスター分析を行って頻出する語の共起関係を調べ、どのような話題のもとでそれらの語が使われているかについて用例を確認しながら考察する。最後に以上の検証をまとめたうえで、本研究によって明らかになった掛唄の話題はなんであったか、分析結果にはどのような特徴があったかを明らかにする。本研究で用いる分析手法はあくまで探索的なものであり、統計的手法を用いたからといって客観的に正しいクリアな結果が得られるわけではないが、統計的手法を用いることで、単なる印象論よりもそれなりに実証的なかたちで、掛唄で扱われる話題に対する全体的見通しを得ることはできるであろう。

## 2 1 首単位の歌詞の分類

まず、掛唄の話題を機械的に分類する試みとして、首（ひとふしで歌われた歌詞）を分類単位とし、歌詞の似ている首同士を同じクラスターに分けていくクラスター分析を行った。クラスター化にはウォード（Ward）法を用いた。分析に使用した語は全部で2回以上出現した語のうち、ひらがなのみから成る名詞・動詞・形容詞・副詞と、否定の助動詞、非自立の形容詞を除いたすべての、合計1535語<sup>(6)</sup>である。併合水準を確認したところクラスター数11と12の間にやや大きな飛躍が見られたことから、クラスター数は12に指定した<sup>(7)</sup>。

表2はこの分析の結果得られた12のクラスターに分類された歌詞の数である。また表3に各クラスターの特徴語として抽出されたもの上位10位を示した<sup>(8)</sup>。表の数値は各クラスター内での関連の強さを示す Jaccard 係数であり、1に近いほど各クラスター内の歌詞に共通して含まれていることを示す<sup>(9)</sup>。

まずクラスター1であるが、これは「今日は吉日日柄もよいし なにかよろずの吉<sup>き</sup>左<sup>そ</sup>右祝い」という、もっともよく歌われる決まり文句の歌詞が大半を占めている。1首だけ「今日は吉日日柄もよいし 俺も掛唄初出場」(2003)<sup>(10)</sup>という歌詞も入っている。

クラスター2はほぼ「若い」という語に代表されるグループである。ここに含まれる歌詞は「若いものにはまねはできぬ あなたの荷方の味のよさ」(1997)といった掛け合いの相手に向けたものや、「若手の日本の松坂投

〔表2〕 歌詞に対するクラスター分析の結果分類された各クラスターの歌詞数

クラスター	歌詞数(首)
1	24
2	81
3	77
4	65
5	82
6	47
7	138
8	1943
9	116
10	96
11	70
12	166
分類不可	2
合計	2907

〔表3〕 歌詞に対するクラスター分析の結果分類された各クラスターの特徴語上位 10 語

1		2		3		4	
日柄	.960	若い	.541	飲む	.649	今	.421
吉左右祝い	.958	年	.089	酒	.473	世の中	.294
吉日	.828	力	.082	気	.131	出る	.048
今日	.238	お方	.070	水	.128	悪者	.046
出場	.039	いつ	.059	お酌	.089	政府	.042
		人	.046	呑む	.052	恐ろしい	.041
		唄う	.043	飲む	.050	終わる	.041
		増える	.043	人	.041	見る	.038
		気持ち	.040	良い	.039	男	.033
		思う	.039	インフルエンザ	.039	子供	.032
5		6		7		8	
秋田	.487	掛け	.461	年	.249	今年	.045
こまち	.326	合う	.431	聞く	.233	人	.043
新潟	.247	親子	.061	頭	.189	来る	.041
美人	.206	金	.056	声	.177	見る	.041
米	.073	朝	.051	立つ	.086	言う	.041
安い	.057	嬢	.043	光る	.071	出る	.035
酒	.052	藤峯	.042	重ねる	.052	思う	.032
あ	.051	幸せ	.041	唄	.049	日本	.027
作付け	.037	好き	.039	荷方	.039	行く	.023
銘酒	.037	同級生	.039	びっくり	.035	悪い	.022
9		10		11		12	
掛唄	.493	唄	.351	荷方	.534	唄う	.336
伝統	.305	先生	.122	節	.430	好き	.208
守る	.133	文句	.073	駒	.222	唄	.130
金沢	.076	声	.072	稼ぐ	.216	元気	.097
唄う	.073	仲間	.061	おばこ	.197	共に	.086
唄える	.061	顔	.054	田んぼ	.112	並ぶ	.061
大学教授	.050	先輩	.046	城	.071	仲良く	.046
続く	.050	上手	.040	唄う	.070	一緒	.039
楽しい	.046	惚れる	.037	掛け	.062	仲間	.032
代	.043	仙北荷方	.037	行く	.060	楽しい	.029

手 若いけれども素晴らしいピッチャーだ」(1999)といった野球に関する歌、「俺がもう少し若かったならば 子供の三人も作りたい」(2011)といった自分に関する仮定の話など、さまざまな内容、文脈の歌が含まれている。

クラスター3は「飲む」「酒」を中心としつつ、「水を飲む」や「気になる」「気をつける」といったフレーズが入った歌詞も含まれているグループである。たとえば「水コ飲みのみ唄ては見たが 年のせいやらままならぬ」(2000)、「酒コ飲みのみ唄コを唄う それが何より幸せだ」(2003)、「空元気というがわしの見たとこ まだまだ続くよ気の短いことない」(2006)、「怖いものだよインフルエンザは みんなも気をつけ予防しよう」(2009)といった歌詞が含まれる(「コ」は秋田方言に特徴的な指小辞)。なお3つめの歌詞は「空の元気で唄っておるが 行く先そこまで近くなった」という歌に対する返答であるが、この先行ターンに相当する歌はこのクラスターではなく、後述のクラスター12に含まれている。

クラスター4は特徴語を見ると「今」と「世の中」という語におおむね代表されるグループであるが、実際の歌詞を見てみると「今の世の中なんだか知れぬ 缶に毒入りカレーにも入れ」(1998抄)のようなその年に起こった事件(この場合は和歌山毒物カレー事件)や「今の世の中不況と言うが 兄貴の腹見りゃそうでもネ」(2000)といった世相に関連づけて相手について歌った歌など、世相に関連した歌詞が大半を占めている。とはいえ中には「今だって大丈夫妻とは離婚する 掛唄終わったらついてこい」(2013)といった、世相とは関係なく歌が交わされる場の時間的な中心を指す表現「今」が入っている歌も含まれている(ちなみにこの歌は「もしも私がもう少し早く 生まれていたら結婚してね」という歌に対する返答である)。

クラスター5は「秋田」を中心としつつ「こまち」「新潟」「美人」などの語にも特徴づけられたグループである。ここに分類された歌詞には「一人一役秋田国体 わたしゃ荷方で迎えたい」(2007)といった秋田に関するもの、「わしの田んぼでこまちを植えて 今のところは実が重い」(1998抄)といった米に関するもの(「こまち」は秋田を代表する米の銘柄「あきたこまち」のこと)もあるが、とくに目立つのが「秋田美人はこまちで育ち 新潟美人はコシヒカリ」(2009)のような、秋田美人と新潟美人を対比させる文脈での歌である。こうした歌は当然ながら伊野ゼミが大会に参加を始めた平成21年(2009)以降にしかない。厳密に数えることは難しいが、伊野ゼミの存在を前提にした歌詞がこのクラスターには30首ほど含まれており、伊野ゼミの参加が大会で歌われる話題に与えた影響の大きさがうかがえる。

クラスター6は「掛ける」、「掛け合う」というフレーズに特徴づけられたグループである。「仲間ありゃこそ張り合い出るさ 朝まで掛け合いがんばろう」(1999)、「誰とやるよりあなたと掛ける それが何より楽しみよ」(2003)といった、掛唄の掛け合いに焦点を当てた歌詞が大半を占めているが、2007年大会の5回戦で「年金」という課題が与えられた掛け合い合計8首のうち「掛けた年金返せというたら 職員私にあやまった」(2007)など3首も含まれている<sup>(11)</sup>。

クラスター7は「年」「聞く」「頭」「声」といった語が特徴語として出てきているが、ここまでのクラスターに比べてJaccard係数の低い語しかない。歌詞を見てみると「白髪生えても声立つうちは 百も二十も越えるまで」(1995抄)といった年齢に関する歌、「声はすれども姿は見えぬ 藪に鶯声ばかり」(1997)という民謡でよく使われている決まり文句、「水コ飲みのみ唄って見たが 年のせいやら声立たぬ」(1999)というクラスター3に分類されている歌詞とほぼ同じだが「年」「声」という語が含まれているためかここに分類されている歌、「年に一度の掛唄祭り あなたと会うのが楽しみよ」(2006)、「2年前震災で亡くなった方もおり いまだに見つからず悲しい出来事」(2013)のように「年」が入っている歌など、かなり雑多な集合のように見受けられる。

クラスター8は1943首もここに分類された巨大なクラスターであるが、特徴語を見てみてもクラスター7と比べてさらに低い値しかなく、一見すると非常に雑多な「その他」的分類になっているのではないかと考えられる。実際ここに含まれた歌詞を見てみると、「神の恵みであなたに会えた 今宵は夢をば見させてよ」(1995抄)といった掛け合いの相手に向けた歌や「茄子の漬け物特別うまい キュウリと比べ味も違う」(1999)といった日常生活

に関する歌など、さまざまな内容の歌が含まれている。だが、そうしたなかでも目立つのが「世界が目撃フランスの核を 実験強行なんという国よ」(1995 抄)(この年にフランスが核実験を実施)、「県民本意の行政願う 悪い慣習はやめてくれ」(1996 抄)(この年秋田県では県庁全体に蔓延していた公費乱用問題が発覚)、「世界のみんながびっくりしたよ ダイアナさんのあの悲劇」(1997)(この年ダイアナ妃が事故死)といった時事問題に関する歌である。時事問題は毎年内容が変わり、そこで使われる語(特に固有名詞)も変わるため、語を手がかりにした分析ではこうした話題の間に関連性を見つけるのが難しく、そのため Jaccard 係数上ままとまりの程度がかなり低いと判断されるクラスターが形成されたのではないかと考えられる。

クラスター 9 は「伝統」「掛唄」そして「守る」といった語に特徴づけられている。このクラスターに分類された歌詞を年代順に見ていくと、「楽しい伝統の掛唄よ 二人並んで盛り上げて行こう」(1999)といった「伝統掛唄を盛り上げる」という趣旨の歌はどの年代でもあるが、比較的早い時期には「新人のお方をお願いあるよ 伝統掛唄続けておくれ」(1996 抄)と新人を励ましたり、「掛の唄なら選手が少な 伝統守るもさみしいよな」(2000)と現状を嘆いたりするといった、掛唄に参加する歌手の減少に由来する歌詞がある。その後ジュニアの部でできた平成 15 年(2003)以降には「伝統掛唄娘だち唄う これだば将来楽しみだ」(2003)といったジュニアの部で歌う生徒たちを話題にした歌が含まれるようになる。さらに平成 21 年(2009)以後は「四十何年掛唄やったが 大学教授と初めてよ」(2009)「花も恥じらう女子大生と 掛唄唄えて幸せだ」(2010)のように、伊野ゼミのメンバーとの掛け合いで歌われた歌が入ってくる。このように、クラスター 9 はここ 20 年の掛唄の歴史を反映しているようで興味深い分類となっている。

クラスター 10 については、「唄」を中心としつつ「先生」「文句」「声」なども特徴語に出てくる分類になっている。ここに分類された歌詞を見ると、「唄の先生のお酌を受けて どんな文句で掛けていく」(1996 抄)と相手を持ち上げる歌や、「心豊かに荷方を唄や 悪い考え起きはせぬ」(1999)のように掛唄の良さを歌ったもの、そしてなかでも多く見られるのが「唄は楽しむと思えば 自然に上手になると思います」(2015)のように掛唄を歌うことやその技量に関する歌がある。

クラスター 11 は「荷方」「節」「駒」「稼ぐ」「おぼこ」と特徴語が並んでいるが、これは「駒にまたがり田んぼを行けば 稼ぐおぼこの荷方節」というしばしば歌われる決まり文句(人によって多少変化はある)がこのクラスターに多く含まれているからである。ただ、クラスター 1 のようにほぼそればかりというわけではない。「横手よいとお城もあるし 金沢山では荷方節」(2002)のように「荷方節」で終わる歌や、「昔なじみのあなたと共に 七色荷方で楽しもうよ」(1996 抄)、「黒森岳から湧き出る水は 荷方育てた声の水」(1996 抄)、「唄コ唄うなら荷方コ唄え 掛けて唄えば飽きがない」(2000)、「不況続けば事件も多い 荷方唄って不況飛ばそ」(1998 抄)のように「掛唄」の同義語として「荷方」が使われている歌詞が含まれている。その内容はさまざまあるが、掛唄を歌うことに焦点が当たった歌詞が多いように思われる。

最後のクラスター 12 は「唄う」「好き」という特徴語のもとでゆるく形成された集合である。そこから下位の特徴語を見てみると「元気」「仲良く」「一緒」「楽しい」といった語が並んでおり、「一緒に掛唄を仲良く唄うのが楽しい/好き」といった歌詞が含まれていることが予想される。このクラスターに分類された歌詞を見てみると、「好きな同志のあなたと私 楽しく唄って場所飾ろう」(1996 抄)、「私も元気で来年も唄う あなたも必ず唄ってけれ」(2002)といった予想通りの歌詞が実際に多く見つかる。とはいえ「好きな女ができてしまった なんと気持ちを伝えたらいいか」(2005)という恋愛的な歌詞や「唄が好きだと知ってはおるが 他にゃどんなに趣味があるの」(2007)のように掛唄以外の話題を振ろうとする歌詞、「日本元気よ感じられるのは アベノミクスより掛唄だな」(2013)という時事問題に触れながら掛唄を讃える歌詞、さらには「メガネなくてもきれい見える やっぱりあなたは良い女」(2015)のように特徴語上位 10 語に入っていない語だけでできている歌詞も含まれており、このクラスター全体を完全に包含するような特徴を見つけるのは難しい。



ここまで各クラスターの特徴について分析してきた。以上の考察をまとめてあえて一言で各クラスターの特徴を表わすと表4のようになる。ここから「若いこと」「飲酒」「時事問題」「秋田と新潟」「掛唄」といった話題を見出すことも可能であるが、表4で示した特徴に収まらない歌詞も多くあることはすでに述べた通りである。

〔表4〕歌詞の各クラスターの特徴

クラスター	特徴
1	決まり文句「今日は吉日日柄も良いし〜」
2	「若い」
3	「酒を飲む・水を飲む」「気をつける」
4	世相・「今」
5	秋田と新潟
6	掛ける・掛け合う
7	「年」などを中心とした雑多な集合
8	時事問題など
9	伝統掛唄
10	唄について
11	「荷方」・唄について
12	「唄う」「好き」・雑多な集合

\*カギ括弧はキーワードを示す。

### 3 抽出語に対する分析

#### 抽出語上位 150 語から見た話題

掛唄における話題の分析は1首単位で行うばかりではなく、抽出語のレベルでも行うことができる。まず抽出語一覧を確認してみよう。表5は抽出語のうち上位150語をリストアップしたものである<sup>(12)</sup>。これを見てみると、上位10位以内には「唄う」「掛唄」「荷方」(仙北荷方節のこと)など、掛唄に直接関連する語がかなり多く入っていることがわかる。20位以内までに多く入っているのは、「今」「今年」「今日」といった歌が交わされる場の時間的な中心を示す直示表現や、「秋田」という掛唄が歌われている場所を指す固有名詞などである。なお23位の「金沢」はより限定的な場所を示す固有名詞であり、掛唄のやりとりではこうした時間的・空間的な中心、すなわち掛唄の場そのものを指す表現がしばしば見られることがわかる。

そこからさらに50位まで範囲を広げてみていくと、「酒」「田んぼ」といった日常生活に属すると思われる語や、「伝統」というしばしば強調される掛唄の属性を指す語が入ってくる。また、「先生」「美人」といった、人を指す言葉も見られる。「先生」について用例を確認してみると、おおむね(1)「唄の先生と肩をば並べ、荷方唄口に花咲かす」(2000)といった「唄の先生」と掛け合う相手を持ち上げる表現や(2)「どうせ変わるなら小沢の先生に政権を取って欲しかったよ」(2007)といった政治家を指す表現、(3)「金沢の掛唄楽しくなったわ 新潟の先生方来てからよ」(2013)といった大会に地域の外部から参加している人間(ほとんどの場合は伊野ゼミ)を指す表現が見られることがわかる。いっぽう「美人」についての用例を確認してみると、男女の掛け合いにおいて女性の歌手が「私も若いときゃ美人であったよ、男泣かせの娘だよ」(1997)と歌ったり、男性の歌手が女性の相手に向かって「沢目で育った姐ゴの姿 何時見ても笑顔とこの美人」(1997)と歌いかけるような例が年代に限らず見受けられる。こうした恋愛的な掛け合いは男女がペアで掛け合った際によく見られる。さらに平成21年(2009)

[表5] 抽出語のうち上位 150 語

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	唄う	344	51	合う	38	101	暑い	26
2	唄	287	52	国	38	102	場	26
3	掛唄	199	53	台風	38	103	昔	26
4	若い	152	54	雨	37	104	早い	26
5	今	139	55	兄貴	37	105	総理	26
6	人	137	56	上手	37	106	仲間	26
7	荷方	134	57	孫	36	107	長い	26
8	好き	119	58	米	36	108	並ぶ	26
9	掛け	106	59	親	35	109	豊作	26
10	言う	105	60	心配	34	110	本当に	26
11	年	104	61	新潟	34	111	夏	25
12	見る	102	62	大事	34	112	日柄	25
13	今年	102	63	横手	33	113	負ける	25
14	今日	101	64	子供	33	114	力	25
15	来る	101	65	取る	33	115	国民	24
16	出る	93	66	女	33	116	自分	24
17	飲む	90	67	食べる	33	117	出来る	24
18	秋田	90	68	続く	33	118	初めて	24
19	声	90	69	来年	33	119	上がる	24
20	聞く	89	70	いつ	32	120	親子	24
21	思う	83	71	教える	32	121	知る	24
22	気持ち	78	72	前	32	122	勉強	24
23	金沢	71	73	金	31	123	話	24
24	酒	65	74	幸せ	31	124	育つ	23
25	日本	60	75	水	31	125	黄金	23
26	唄える	59	76	良い	31	126	家族	23
27	行く	56	77	会える	30	127	顔	23
28	頭	55	78	今度	30	128	吉左右祝い	23
29	花	54	79	秋	30	129	去年	23
30	嬉しい	54	80	世界	30	130	文句	23
31	悪い	53	81	優勝旗	30	131	味	23
32	祭り	51	82	吉日	29	132	だめ	22
33	伝統	51	83	守る	29	133	高い	22
34	一緒	50	84	欲しい	29	134	生まれ	22
35	こまち	48	85	きれい	28	135	待つ	22
36	困る	48	86	パチンコ	28	136	おばこ	21
37	楽しい	47	87	持つ	28	137	一番	21
38	世の中	47	88	手	28	138	楽しみ	21
39	気	46	89	男	28	139	今宵	21
40	分かる	46	90	娘	28	140	仕事	21
41	節	45	91	優勝	28	141	出す	21
42	先生	43	92	喜ぶ	27	142	日本一	21
43	頼む	43	93	言葉	27	143	稼ぐ	20
44	心	42	94	山	27	144	会う	20
45	田んぼ	42	95	少し	27	145	恵み	20
46	美人	40	96	相撲	27	146	桜	20
47	共に	39	97	立つ	27	147	時代	20
48	咲く	39	98	頑張る	26	148	増える	20
49	変わる	39	99	願う	26	149	体	20
50	元気	38	100	重ねる	26	150	値段	20

からは「秋田美人と新潟美人 どちらも甲乙つけがたい」(2009) といった、伊野ゼミの参加者（大半が女子大生）を指す用法が加わっている。こちらについては男女の掛け合いとは限らず、男性同士の掛け合いにも見られるという特徴がある。第2節でも見られたように、掛唄の話題に対する伊野ゼミの影響はここでも確かめることができる。

50位からあとの語についてもあわせて見てみると、「パチンコ」「相撲」のような娯楽に関する語や「総理」「国民」あるいは「国」といった政治に関するものと予想される語も出てくる。ほかにも「台風」や「雨」「暑い」のような気候に関する語、「豊作」「黄金」(稲穂の色のこと)のような稲作に関する語、「孫」「親」「家族」のような家族関係の語も見える。なお、「吉日」「日柄」「吉左右祝い」は「今日も吉日日柄もよいし なにかよろずの吉左右祝い」という決まり文句がよく使われることを反映してこのランキングに入っているが、「今日は吉日金沢の祭り雨もあんまり降らないで」(2007)のように決まり文句から一部を取った歌もあることから、それぞれの出現回数は異なっている。

### 階層的クラスタ分析から見た掛唄の話題

抽出語上位150語のリストから大会で歌われる掛唄には以上のような話題が表われていることがうかがえるが、これらのなかで具体的な共起関係の近さを見るために、最小出現回数20以上の語（ほぼ抽出語上位150語に相当）に対して階層的クラスタ分析を行った。分析では集計単位を首に設定し、同じ首のなかによく一緒に出現している語の組み合わせほど出現パターンが似ていると判断するようにした。併合水準のプロットを見たところクラスタ数10の直前に併合水準の比較的大きなギャップが見られたため、樹形図はクラスタ数10で作成した。樹形図が長大なため、表6にクラスタ数を10に設定した場合において各クラスタに含まれた語の一覧を示す。なお、分析ではクラスタ数4から15に設定した場合についてもそれぞれ確認している。

〔表6〕抽出語に対するクラスタ分析の結果

クラスタ	含まれている語
1	今日、吉日、日柄、吉左右祝い
2	おばこ、稼ぐ、荷方、節
3	上がる、値段、米
4	美人、新潟、秋田、こまち
5	飲む、酒
6	咲く、花、高い、桜
7	好き、唄う、唄、若い、年、重ねる、味、手、仲間、増える、恵み、会える、共に、今宵、祭り、楽しい
8	掛け、合う、掛唄、伝統、守る
9	夏、暑い、田んぼ、黄金、来る、秋、雨、天気、今年

表6のクラスター1と2は明らかにそれぞれ「今日は吉日日柄もよし 何かよろずの吉左右祝い」と「駒にまたがり田んぼをゆけば 稼ぐおばこの荷方節」という決まり文句を反映している。

クラスター3は「米の値段が上がる」という歌詞が頻出しているような印象を受けるが、実際の歌詞を見てみるとむしろ逆であり、この語は「米の値段が上がらない(むしろ下がる)」という話題を反映したものであることがわかる。KWIC コンコーダンス(特定の語の出現履歴)を見てみると、「値段」(出現回数20回)という語はすべて米の値段を話題にする歌詞で使われている。歌い手のほとんどは兼業あるいは専業の米農家のため、米価はしばしば関心の的になっていることがここからうかがえる。

クラスター4は表4のクラスター5と同じく新潟と秋田を比較する話題を反映していると考えられる。なお、樹形図上は「美人・新潟」と「秋田・こまち」が最小のペアになっており、「新潟」については「美人」と、「秋田」については「こまち」と特に共起しがちであることがわかる。

クラスター5は表4のクラスター3と似たような集合になっており、「飲酒」が掛唄において定番の話題のひとつとなっていることがうかがえる。

クラスター6は表4には見られなかった集合である。ここで「桜」という語(出現回数20回)に注目してKWIC コンコーダンスを見てみると、用例の大半が「梅の匂いを桜に込めて 枝垂れ柳に咲かせたい」という決まり文句であった。そのほかにも「高いお山の御殿の桜」というフレーズが4例見られたが、これも「高いお山の御殿の桜 枝は七枝だ八重に咲く」という仙北荷方節の決まった歌詞そのまま、あるいはそれをもじった歌詞であった。

クラスター7と8はともに掛唄に関する話題で用いられる語の集合であるように見える。ちなみに総クラスター数を9に設定するとこのクラスターは統合されることからうかがえるように、樹形図上この両クラスターはかなり近い分岐で描かれている。クラスター7に「好き」「楽しい」が入っていることからうかがえるように、「掛唄」という話題はポジティブに扱われるが、これは大会が掛唄の同好の士が集まる場であることを考えれば当然のことであろう。

クラスター9にあるのはおおむね天候に関する語であると考えられる。「田んぼ」がこの集合に含まれていることから、天候はしばしば稲作と関連して歌われることがうかがえる。

最後のクラスター10は含まれる語数が他と比べて非常に多いが、ここに含まれた語が単一の話題に関連するようには思えない。あえて言えば「世の中」「今」や「総理」などが入っていることから、表4のクラスター8のように時事問題に関する話題に言及した歌の中で用いられた語が多く含まれているのかもしれない。

以上の分析から見出された話題は「決まり文句」「米価」「新潟・秋田」「飲酒」「掛唄」「天候」「その他」にまとめることができるだろう。

#### 4 計量テキスト分析から見た掛唄の話題

ここまで、ほぼすべての歌詞を対象とした1首単位のクラスター分析と、抽出語上位150語相当を対象とした観察と階層的クラスター分析を行ってきた。まず断っておかねばならないのは、1首全体を単位としても抽出語を単位としても、クラスター分析の結果において話題とクラスターの分類がきれいに一致することはなかった、ということである。このことはKH Coderによる他の多変量解析の手法(対応分析や共起ネットワーク多次元尺度構成法)を用いても同じことであった。これは語の意味を捨象し出現状況のみを手がかりとした分類には限界があることを示している。また、実際の掛け合いを見てみると同じ組の掛け合いは同じ話題に終始していることがしばしばあるが、本研究では同じ組の掛け合いの歌詞がしばしば異なるクラスターに含まれていた。この事実は、第

1節で述べたように人が「話題」を単に語の出現状況からだけではなく、前後の文脈などを手がかりとした推論によって把握している<sup>(13)</sup>ことを示しているように思われる。

とはいえ、これまでの分析から掛唄においてよく見られる話題について一定の見通しを得ることはできた。まず、いずれの分析においても掛唄そのものが掛唄大会でしばしば話題になっていることは明らかであった。また、「今」を含む表現が多く見られるところや、「秋田」「金沢」が比較的頻出するところから、掛唄の場に言及する、あるいはそこを中心においた歌がよく歌われることも明らかとなった<sup>(14)</sup>。こうした歌の中には「今の世の中」、すなわち世相を歌ったものも少なからずあった。

世相とある程度連続的であると思われるものの、本研究の分析では明確な形で取り出すことのできなかった話題が時事問題である。例年掛唄大会では頻繁に時事問題が取りあげられるにもかかわらず本研究でこれがはっきりとは見出されなかったのは、第2節で述べたように、時事問題に関する歌で使われる具体的な語が毎年違うからであると考えられる。たとえば首相の名前はほとんど毎年のように出てくるのであるが、日本ではここ20年かなり頻繁に首相が替わることが普通であった。また、ある年において非常に話題になった事件は通常1年も経てばよりホットな事件に取って代わられている。似たようなことがスポーツについても当てはまる。掛唄では相撲や野球に関する歌も歌われるが、その年に活躍した(目立った)選手が言及されるので、頻出語を追うだけではこうした話題を検出しにくくなる。第2節の分析において非常に雑多に見えるクラスターにこうした話題ともしき歌詞が多く見られたのは時事問題の検出しづらさの表れであろう。とはいえ検出されにくいにもかかわらず、第3節で扱った抽出語の上位には「総理」や「国民」といった時事問題にある程度共通して使われる語が含まれていたところからは、(少なくとも政治に関する)時事問題が実際にはかなりよく歌われていることがうかがえる。本研究では十分探究できなかったが、条件を工夫すれば時事問題に関する歌は語の出現を手がかりにしてもある程度検出することができるはずである。

さて、時事問題は日々の暮らしとさほど関係ない、いわば遠い話題である。これに対して気候や娯楽、稲作などは歌い手たちの日常生活に近いという意味で身近な話題である。これについても本研究の分析によってある程度見出すことができた。歌詞に対するクラスター分析ではあまり明瞭に見られなかったものの、抽出語に対するクラスター分析からは天候や米価といった話題を発見することができ、抽出語上位150語には「パチンコ」や「台風」、「豊作」といった身近な話題に属する語も見られた。家族関連の語も見られたことから、家族に関する話題も実際はたびたび出てきていると考えられる。たとえば「孫」に関しては「かわいい孫にも荷方コ教え 今度この場で唄います」(2001抄)のように、自分の孫に対する言及が見られるが、これなどはまさに身近な家族が歌の題材となっている。

第2節と第3節の分析両方で見られた分類のひとつが「飲酒」にまつわるものであったが、個々の歌詞を見ていくとその内実にはいくつかバリエーションがある。「酒は飲んでも飲まれちゃならぬ これが親父の口癖だ」(2007)のように酒を飲むことそのものが話題となっているものもあれば、「酒コ飲みのみ唄コを唄う それが何より幸せだ」(2003)や「秋田で生まれて好きなお酒 あなたと共に飲みたいよ」(2012)のように、楽しみや社交のツールとしての飲酒が歌われていることもある。なかには「皆様から見ればやかんの中身は 酒と思うだろうが水ですよ」(2004)や「兄貴まず飲めやかんの水を 酔ったふりして荷方節」(2011)のように、掛唄のステージに置いてある水を話題とした歌詞もある。こうしたバリエーションが表われるのは、歌い手たちにとって酒を飲むという行為(あるいはそれと対比される、水を飲むという行為)がごく日常的なものであり、さまざまな文脈と結びつきうるからであろう。当然水を飲みながら歌を掛け合い、大会が終わるとビールが振る舞われるこの大会〔梶丸 2014〕もそうした文脈のひとつである。

日常の文脈からの遠近で分けられる話題とはやや異なるのが、伊野ゼミの登場による「秋田と新潟」という話題である。どの分析においてもこの話題が見出されたところからは、伊野ゼミが大会でかなりの存在感を発揮し

ていることがわかる。先にも引用した「秋田美人はこまちで育ち 新潟美人はコシヒカリ」(2009)という歌詞に象徴されるように、秋田と新潟はどちらも酒どころで米どころであり、地域として対比しやすいこともこの話題が目立つ要因のひとつとなっているのかもしれない。分析対象期間において「新潟」(出現回数34回)という語の初出は、5月に小泉首相が北朝鮮を訪問し拉致被害者家族5人が帰国して北朝鮮拉致問題が話題になった年に歌われた「夫の問題政府も感じ なんとか新潟で暮らせるように」(2004)であるが、それ以外はすべて伊野ゼミからの参加者との掛け合いや、伊野ゼミを話題とする掛け合いで使われていた。掛唄において具体的にどれほど頻繁に伊野ゼミ関連の話題が歌われるようになったのかはさらに検証が必要ではあるが、このグループの登場によって掛唄の話題に変化が見られたことは確かである。そしてこの変化自体、大会において歌い手たちが「掛唄の場」を起点として毎年新たに歌を作り出していることを示している。

最後にひとつ、掛け合いではしばしば聞かれるにもかかわらず本研究での分析からほとんどあぶり出せなかった話題がある。それは「恋愛」あるいは「色恋」とでも呼べる話題である。平成17年(2005)の大会で見られた掛け合い「美しい声にほろっと参る 馬鹿な私また参っちゃった」「声はこの通り気持ちもきれい 俺にだまってついて来い」のように、実際には男性と女性の掛け合いになると(真剣なものではなくあくまで遊びとして)しばしば恋愛の掛け合いが歌われているが、本研究ではかろうじて第2節で引用したいくつかの歌詞や第3節の分析における「美人」の用例からそうした掛け合いの存在を垣間見ることができたのであった。上述の掛け合いのように、恋愛の掛け合いはしばしばごく一般的な語を用いて、文脈や歌い手の性別を含む背景情報を土台として行われるために、語の出現のみを手がかりに探索してもこの話題を抽出することができなかったのかもしれない。この問題を解決するためには、おそらく実際の歌詞を見ながら質的なアプローチを進めていくことが求められるだろう。

本研究では以上のように、掛唄の話題を Correlational アプローチから探ってきた。第1節で述べたように、本来計量テキスト分析はこれに加えて Dictionary-based アプローチによってデータを分析していくことにその強みがある。本研究ではコーディングルール(語やフレーズに対するラベリングの規則)を作成するところまでは行えなかったが、今後は本研究を踏まえた適切なコーディングルールを作成し、年度ごとの話題の増減や歌い手ごとの歌詞の癖、さらには分析単位をそれぞれの掛け合い全体に置いてどのように特定の(複数の)話題が歌の中で表われているかを探っていくことが課題となる。「時事問題」や「恋愛」のような、キーワードで拾いづらい話題については具体的な歌詞を注意深く観察しながら、可能な限り包括的なコーディングルールを作成することが求められるだろう。こうしたアプローチによって、「掛唄で歌われることはなにか」という問題をより徹底的に探究することができるはずである。

## 付記

本研究では新潟大学教育学部の伊野義博教授とゼミ生の皆様、現顧問の加藤義男氏をはじめ金澤八幡宮伝統掛唄保存会や歌い手の皆様にご協力をいただいた。また現地調査の一部については日本学術振興会特別研究員奨励費によって支援を受けた。ここに改めて深く謝意を表したい。

## 注

- 1 本論文における「掛け合い歌」は、一定の旋律にある程度即興で歌詞を付けて掛け合う歌を指しており、歌詞がほぼ固定されている掛け合いは含まない。これは歌詞の即興性の有無が、言語重視か音楽重視か、発話による相互行為か否かという観点から見て歌の掛け合いを分ける大きな分岐点となっていることに基づいた区別である〔梶丸 2013: 9-10〕。
- 2 平成16年(2004)に千畑町・六郷町・仙南村が合併して現在の美郷町になっている。
- 3 「唄・掛唄」が重複している理由は不明である。
- 4 全県かけ唄大会については手持ちの記録が少ないこと、運営の形態が多少異なることから、今回の分析から外した。また、金澤山八幡神社掛唄保存会〔1977〕にも昭和10年(1935)と昭和11年(1936)の歌詞が一部採録されているなど、平成7年(1995)以前の記録も多少はあるが、戦前の掛唄大会は現在と形式が多少異なっており、これに従って掛け合いのスタイ

ルが今と少し違っているように見受けられることから、本研究の分析には用いなかった。さらに、歌詞が即興ではない「ジュニアの部」(平成15年(2003)～平成26年(2014))と「大学生の部」(平成21年(2009)～平成27年(2015))における掛け合いと、金澤八幡宮伝統掛唄大会終了後に行われる直会での掛け合いやその他イベントにおける掛け合いも、「大会において即興で歌われる掛唄の分析」という本研究の射程からは外れると判断して除外した。これら本研究から外した歌詞の分析については資料収集の状況を鑑みつつ今後の課題としたい。

- 5 分析時点における KH Coder のβ版は ver. 2.00e であるが、分析において若干エラーが生じたこと、最新の α 版ではそのエラーが解消されていたことからあえて開発途上の α 版を使用した。
- 6 これらの分類を除外した理由は「する」「ない」「まだまだ」などあまりに一般的でクラスターの特徴を分析するのに適さない語を多く含むためである。
- 7 なお、全体の併合水準を見てみるとクラスター数が 365 に分岐するあたりから指数関数的に併合水準が増大しているのが観察されたが、ここまで細分化されたクラスターを検討するのは非現実的である。ここの記述は併合後のクラスター数 50 以内のプロットにおいて観察されたことに基づいている。
- 8 なお、「かんざしやるから指輪をよこせ お前にササせてわしハメる」(1995 抄)と「くしもいらなきゃ油もいらぬ これほどいいことありゃしない」(2000)の2首については分類不可とされた。
- 9 Jaccard 係数は2つの集合の類似度を表わす数値表現であり、集合 X と集合 Y に対して  $Jaccard(X,Y) = |X \cap Y| / |X \cup Y|$  ( $|A|$  は A の要素数を表わす) で定義される値である。
- 10 引用した歌詞の後ろに付した括弧内の表記は表 1 にある年度を表している。
- 11 平成 19 年(2007)は社会保険庁の年金記録問題が大ききニュースとなった年である。
- 12 この一覧表からは KH Coder の機能により、否定助動詞「ん」など一般的すぎると判断される品詞に分類されたもの、すなわちひらがなのみからなる名詞・動詞・形容詞・副詞、否定助動詞、形容詞(非自立)、未知語、感動詞、その他が自動的に除外されている(樋口 2014:138)。なかには「がんばる」などこの一覧表に含めてもよいと思われる語彙もあるが、話題についてのおおざっぱな見通しを得るうえでは特に影響はないと考えられる。
- 13 こうした認識は会話分析のみならず、相互行為を扱う言語学の諸分野で広く認められている。エンフィールド [2015]などを参照。
- 14 相互行為が出来事の場合(時間的・地理的な中心)を起点として行われている、という議論について社会記号論的コミュニケーション論の立場から展開しているものとして小山 [2012] などがある。ここでの考察はこうした議論を念頭に置いている。

## 参考文献

- 秋田県教育委員会編 1999 『秋田県指定無形民俗文化財 金澤八幡宮掛け歌行事—文化財収録作成調査報告書』秋田市、秋田県教育委員会。
- 安倍完爾・佐々木孝治・小西弘蔵・畠山善栄・熊谷暁編 2003 『即興詩人の郷—全県かけ唄大会五十回記念誌』、六郷町、六郷町かけ唄保存会。
- 糸永正之 1983 「ブータンの「<sup>ツォンマ</sup>相聞歌」—交互唱による対面伝達行動の予備的研究」『学習院大学東洋文化研究所調査研究報告』21、43-187。
- エンフィールド、N.J. 2015 『やりとりの言語学—関係性思考がつなぐ記号・認知・文化』、東京、大修館書店。井出祥子監修、横森大輔・梶丸岳・木本幸憲・遠藤智子共訳(原著:Enfield, Nick J. 2013. *Relationship Thinking: Agency, Enchrony, and Human Sociality*. Oxford: Oxford University Press)。
- 梶丸岳 2013 『山歌の民族誌—歌で詞藻を交わす』京都大学学術出版会。
- 梶丸岳 2014 「秋田県の掛け合い歌「掛唄」の今」『民俗音楽研究』39、49-60。
- 加藤義男編 2007 『金澤八幡宮伝統掛唄秋田県無形民俗文化財指定 15 周年記念誌』横手市、金澤八幡宮伝統掛唄保存会。
- 金澤山八幡神社掛唄保存会 1977 『金澤山八幡神社掛唄について』横手市、金澤山八幡神社掛唄保存会。
- 串田秀也 1997 「会話のトピックはいかに作られていくか」谷泰編『コミュニケーションの自然誌』、東京、新曜社、173-212。
- 小山亘 2012 『コミュニケーション論のまなざし』、東京、三元社。
- 辻純一 1980 「熊の宮かけ唄—民俗行事荷方節かけあい合戦」『北方風土』1、118-125。
- 土橋寛 1965 『古代歌謡と儀礼の研究』、東京、岩波書店。
- 樋口耕一 2006 「内容分析から計量テキスト分析へ—継承と発展を目指して—」『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』32、1-27。
- 樋口耕一 2014 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して』、京都、ナカニシヤ出版。
- 藤田徳太郎 1940 『日本民謡論』、東京、萬里閣。
- 松本祐治・北内啓・山下達雄・平野善隆・松田寛・高岡一馬・浅原正幸 2003 『形態素解析システム「茶釜」version 2.3.1 使用説明書』奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科自然言語処理学講座。
- 宮崎隆 1990 「「掛唄」の現代—秋田県仙北郡のうたがけ考—」『日本歌謡研究』30、107-113。
- 山口弥一郎 1955 『東北民俗誌 会津編』、東京、富貴書房。
- 渡邊昭五 1981 『歌垣の研究』、東京、三弥井書店。

# What has been sung in *Kakeuta*? : An attempt to extract topics of *Kakeuta* through quantitative text analysis

KAJIMARU Gaku

*Kakeuta* in Akita prefecture is a very rare folksong genre in Japan as an improvisational reciprocal song that has been performed and for which records have been kept until now. This study investigates what kind of topics have been chosen for *Kakeuta* using the method of quantitative textual analysis. The data analyzed are the records of the words used at Kanezawa Hachimangu Traditional *Kakeuta* Contest for past 21 years.

First of all, through cluster analysis using each song as a unit, topics such as drinking, social conditions, Akita and Niigata Prefectures, and *Kakeuta* itself can be found. However, some topics such as current affairs cannot be clearly extracted. A few categories also seem to include multiple topics. Next, through examining about 150 of the most frequent words extracted from the data, topics such as entertainment, climate, drinking, Akita and Niigata, and *Kakeuta* can be distinguished. It is a future issue to detect the pattern of usage of topics in *Kakeuta* with different approaches, dealing with topics difficult to extract by the current method.

Keywords: *Kakeuta*, topic, cluster analysis, quantitative text analysis